

EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

[米国農務省GAINレポート 2024年12月27日](#)

これは米国農務省海外農業局のマドリッド事務所(スペイン)が域内関係事務所の協力を得て作成した「柑橘類年次報告書」のエグゼクティブサマリー及びオレンジとオレンジ果汁の項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

欧州連合(EU)の2024/25販売年度(年度)の柑橘類の総生産量は、前年度の1,050万トンより少ない1,010万トンと予測される。EUの2024/25年度のオレンジ、マンダリン、レモンの生産量は、2023/24年度に比べて減少した。グレープフルーツは唯一の例外で、2024/25年度の実績の増加が予測される。EUの柑橘類の生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアがEUの主要な柑橘類生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがそれに続く。

EUのレモンとグレープフルーツの栽培面積は増加傾向にあるが、オレンジの栽培面積は比較的安定しており、マンダリン及びタンジェリンの栽培面積は減少傾向にある。面積の減少は、収益性の低い果樹園の放棄、及び場合によっては世代交代できないことによって説明できる。EUの柑橘類は、面積だけでなく需要の面でも、アボカドやマンゴー等の代替となる亜熱帯果樹と競合していることがある。

極端な暑さから、灌漑用水の制限につながる干ばつ、降雪、降霜、洪水、集中豪雨に至るまでの気象の変化は、EUの主要な柑橘類産地の収量に悪影響を与え、品質面(果実のサイズや色)にも影響した。これらの状況の変化が、新たな病害虫の急増を引き起こすこともあった。同様に、一部の産地では、昼夜の温度差の減少に対する柑橘類の反応として、果実の糖度や風味には影響がないものの外果皮の緑化の増加が報告されている。その結果、商業的に販売できない品質の果実があり、生産されたもの(総生産量)と市場に出荷されるもの(純生産量)との間に差が生じている。

EUの柑橘類生産者は、植物保護剤の有効成分の入手がますます難しくなっている中で、EUの柑橘類生産に損害を与える可能性のある第三国からの病害虫の侵入を警戒している。

柑橘類の農学的な回復力だけでなく、柑橘類栽培の経済性も試されている。2024/25年度には、EU全域の生産者は引き続き、エネルギー(燃料、電気)から労働力及び植物保護剤に至るまで、コストの増加に直面している。同様に、世代交代の難しさも、営農活動の継続における課題となっている。これらの課題に対処するためには、水管理システムの改善、農作業の機械化、気候変動や害虫に強い品種へのアクセス、及び農業投入資材の使用の最適化が鍵であると考えられている。

EUは柑橘類の純輸入者であり、輸入が輸出を大幅に上回っている。オレンジとそれに次いでレモンが最大の輸入柑橘類である。EU域内の生産国から非生産国に向けて、大量の貿易が行われている。アジア向け輸送路の困難性が高まるのに伴い、貿易の地域化が進んでいる。

EU近隣の地中海沿岸の柑橘類生産国(エジプト、トルコ等)は、EU向けに輸出努力を集中している。メルコスール加盟国が特にオフシーズンの柑橘類及び冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)等柑橘類ベースの加工品の供給国として目立った地位を占めていることから、EUの柑橘類生産者はEUとメルコスールの協定に関する動向を注視している。

2024/25年度のEUの生鮮柑橘類輸出は、EU域内の収穫量の減少に伴い縮小すると予想される。

パンデミック時に記録的な量を記録した後、生鮮柑橘類の消費量はパンデミック前の水準に戻った。しかし、東欧のEU加盟国では消費の増加が予想されており、またフランス等のより成熟した市場でも、その程度は小さいものの消費の増加が予想されている。

<オレンジ>

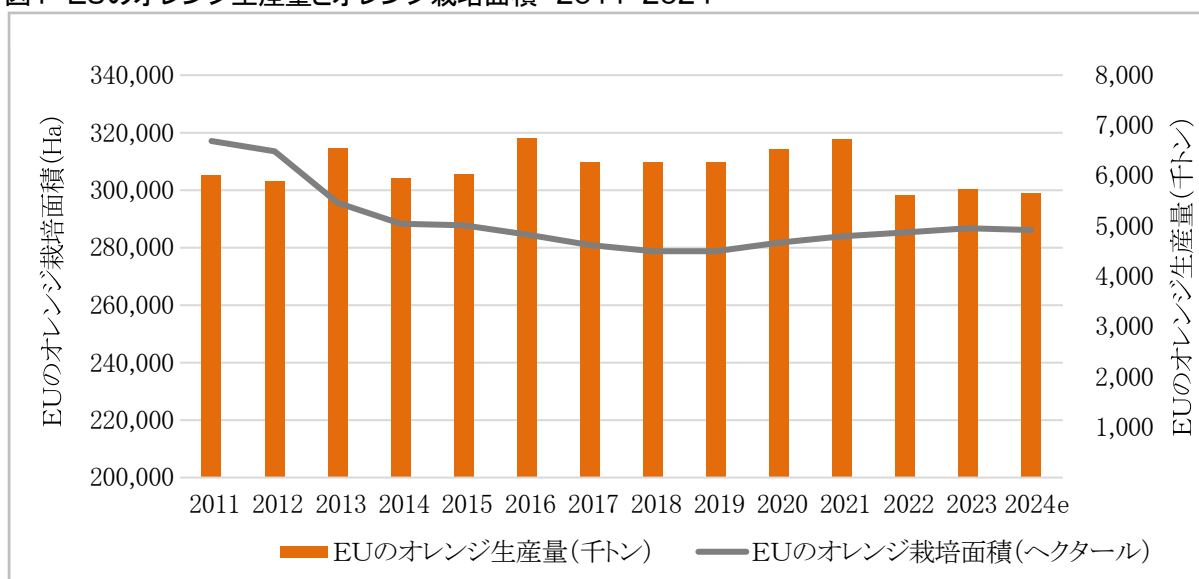
表1 EUの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	285,348	285,224	286,863	286,755		286,131
収穫面積(ヘクタール)	264,632	264,352	265,831	264,387		263,565
生産量(千トン)	5,580	5,610	5,475	5,728		5,658
輸入量(千トン)	1,047	1,046	1,090	938		950
総供給量(千トン)	6,627	6,656	6,565	6,666		6,608
輸出量(千トン)	343	343	300	307		325
生鮮域内消費量(千トン)	5,660	5,640	5,625	5,660		5,635
加工仕向量(千トン)	624	673	640	699		648
総仕向量(千トン)	6,627	6,656	6,565	6,666		6,608

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2022/23年度及び2023/24年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

図1 EUのオレンジ生産量とオレンジ栽培面積 2011-2024



出典：海外農業局EU各事務所

EUの2024/25年度のオレンジ生産量は、2023/24年度の570万トンから560万トン強に減少すると予測される。オレンジの生産はEU内で最大の柑橘類部門であり、スペインがEUの生産量の50%を占めている。

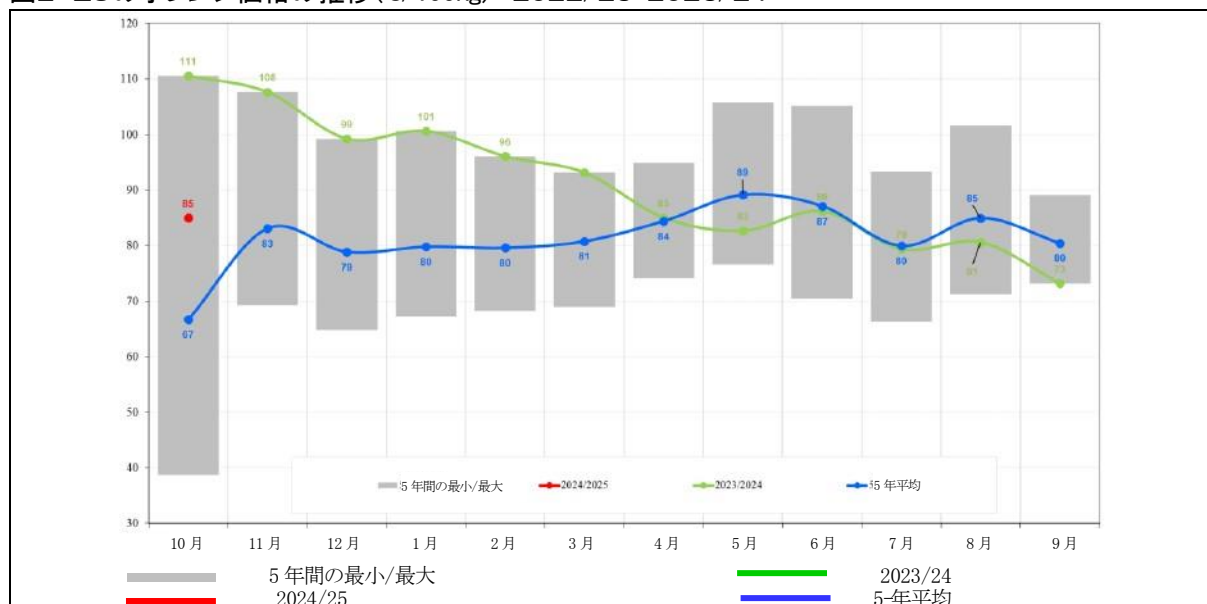
干ばつが生産性を押し下げ果実のサイズに悪影響を及ぼしたイタリアで収穫量の減少が予測され、スペインとポルトガルの推定生産量の増加はこれを埋合せできなかった。2024/25年度のギリシャのオレンジ生産量も減少すると予測される。ペロポネソス半島(ギリシャ南部)とエトリアカルナニア地域(ギリシャ西部)がオレンジの主要産地であるが、エトリアカルナニアでは降雨量が多かったものの、ペロポネソス半島では干ばつにより収量が減少した。

スペインでは、生育期間全体を通じて豊富な降水量が土壌水分を回復し、ダムが満水になったため、アンダルシア州ではオレンジ生産に十分な水供給が確保され、この地域での生産期待が高まった。アンダルシア州はスペイン最大のオレンジ産地であるが、過去2回の販売年度には厳しい水配分制限に苦しんだ。DANA(スペイン語の「高層孤立低気圧」の頭文字)により2024年10月29日に発生した集中豪雨と洪水は、スペインのバレンシア地方の特定の地域に壊滅的な影響を及ぼした。被災地の生産者は、過度の湿気、果実への雹害、または裂果及び落果による今シーズンの収穫の喪失を報告している。この地域の果樹は、水の方で根こそぎにされたり、損傷を受けた樹体が最終的に枯死に至る可能性があり、恒久的な被害が記録された。ただし、EU全体のオレンジ生産量への影響は限定的であると予想される。

ポルトガルの柑橘類生産はアルガルヴェ地方に集中しており、オレンジ生産が主体である。2024/25年度には、灌漑用水の制限により収量が抑制され、面積の拡大が妨げられた。主なオレンジ産地と品種については、それぞれ付録I及びII(省略)を参照願いたい。

[EU Citrus Dashboard](#)によると、2024/25年度の価格は、果実のサイズが大きく、北半球の販売年度の初めに南半球産オレンジが少なかったこともあり、5年平均を上回って始まった。しかし、2023/24年度の初めに生産者が受け取った価格に比べればまだはるかに下回っていた。

図2 EUのオレンジ価格の推移(€/100kg) 2022/23-2023/24



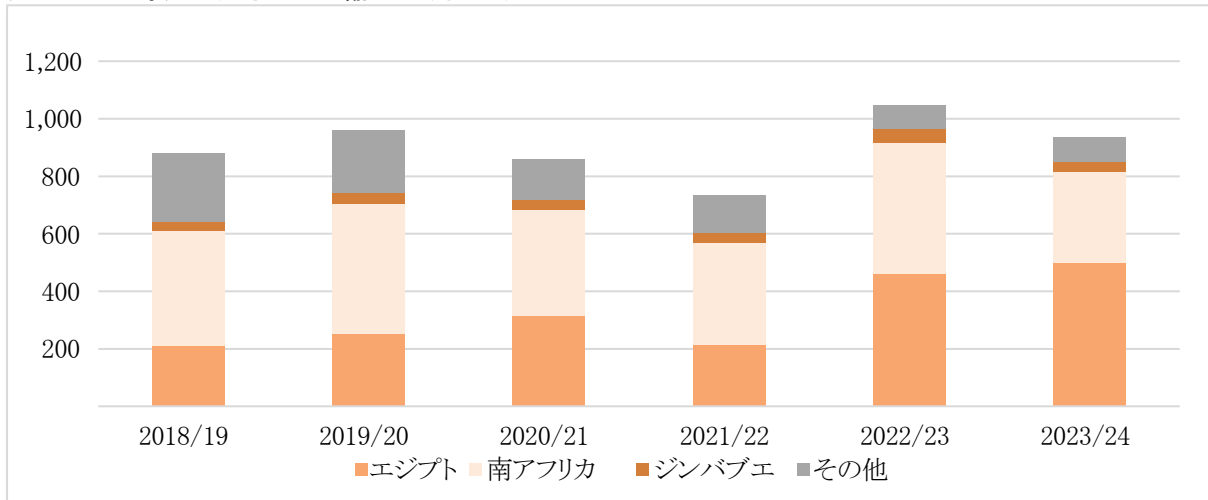
出典: DG AGRI Dashboard: Citrus Fruit

2024/25年度には、生鮮オレンジの消費量は前シーズンに比べて減少すると予想される。これは、2023/24年度にオレンジが豊作を記録し主に生鮮消費に充てられたイタリアで、生産量の急激な減少が予測されるためである。柑橘類の需要は、学校の新年度の始まりに当たる9月に回復し始める。晩生品種の品質が高いことによるオレンジ販売シーズンの延長は、店頭で絞るオレンジ果汁の販売の増加と相まって、EUの生鮮オレンジの需要をパンデミック前よりもわずかに高い水準で維持することに貢献している。2024/25年度には、加工用途の割合が大きいスペインで果実が入手しやすくなったが、果実のサイズが改善したと言われていることから、オレンジの加工仕向量は減少するものと予測される。詳細については、以下のオレンジ果汁の章を参照されたい。

2024/25年度には、生鮮消費と加工の両方の最終用途のために、安定した量のオレンジがEUに輸入されると予想される。域内生産量が減少したにもかかわらず、北半球の販売年度の序盤には南アフリカ産のオレンジはEU市場にそれほど存在していなかった。現在は、EUと出荷シーズンが重なるエジプトからのオレンジ輸入のペースに注目が集まっている。地中海沿岸の非EUオレンジ生産国が、より困難でコストのかかるアジア向けよりもEUでの販売を優先していることを考慮すると、これは特に重要である。

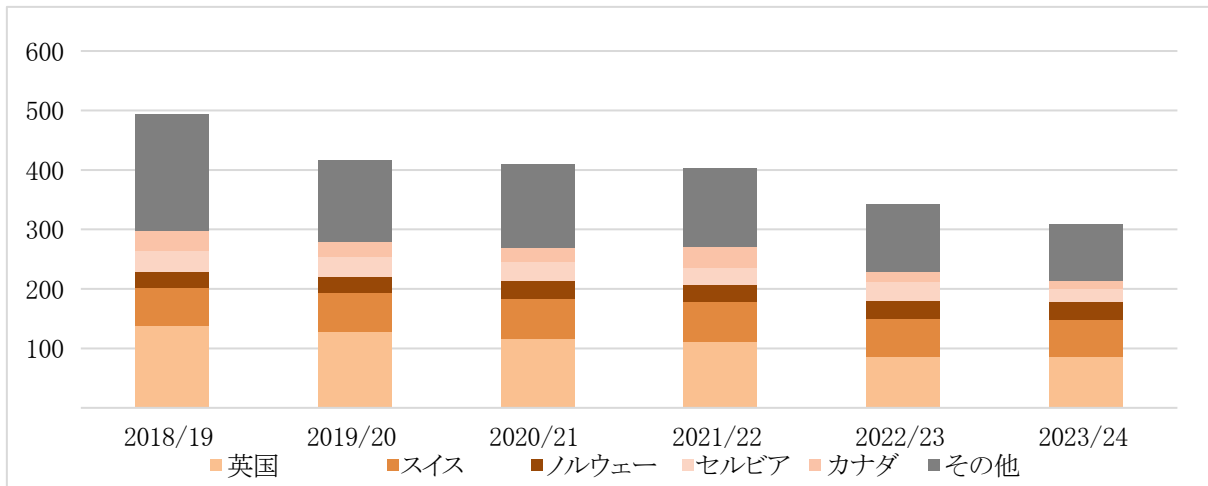
EU域外の地中海沿岸オレンジ生産国との競争が減少したことや、EU最大のオレンジ生産・輸出国であるスペインの供給量が増えたこと等を踏まえ、EUのオレンジ輸出量は2023/24年度に底を打った後、2024/25年度には回復するものと予想される。EU産オレンジは主にスペインから輸出され、主な輸出先は、英国、スイス、セルビア、ノルウェー、カナダ等である。

図3 EUの原産地別オレンジ輸入量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

図4 EUの輸出先別オレンジ輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

<オレンジ果汁>

表2 EUのオレンジ果汁(ブリックス値65)の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり 欧州連合(EU)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	624,000	673,000	640,000	699,000		648,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
製造量(トン)	48,374	52,172	49,614	54,188		50,234
輸入量(トン)	525,090	530,846	528,000	479,104		527,000
総供給量(トン)	588,464	598,018	592,614	548,292		592,234
輸出量(トン)	110,798	111,158	116,000	114,123		111,000
域内消費量(トン)	462,666	471,860	461,614	419,169		466,234
期末在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
総仕向け量(トン)	588,464	598,018	592,614	548,292		592,234

これは米国農務省の公式データではない。

出典: 2022/23年度及び2023/24年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

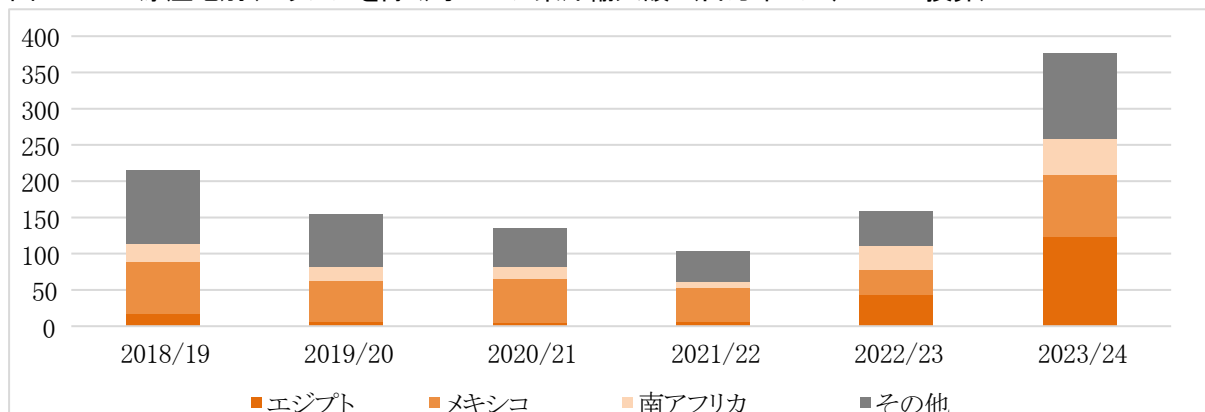
2024/25年度のスペイン産オレンジのサイズが前シーズンに比べて改善した結果、加工仕向け量が減少することが予想され、このためEUのオレンジ果汁生産量は、前シーズンの水準から減少すると予想される。柑橘類の生産が主に生鮮消費を目的としているイタリアでも、オレンジ果汁に使用されるオレンジの数量が少なくなると予想される。

2024/25年度のオレンジ果汁輸入量は、世界市場のバランスが逼迫し、価格の高騰が輸入を押し下げた前シーズンと比較して増加すると予想される。エジプトはEUにとって、EUの輸入市場の85%以上を占めるブラジルに次ぐ第2位のオレンジ果汁供給国である。

2024/25年度のEUのオレンジ果汁輸出量は、域内供給量の減少に伴い減少すると予想される。英国は依然としてEUのオレンジ果汁の突出して最大の輸出先であり、EUの輸出量の半分以上を占める。

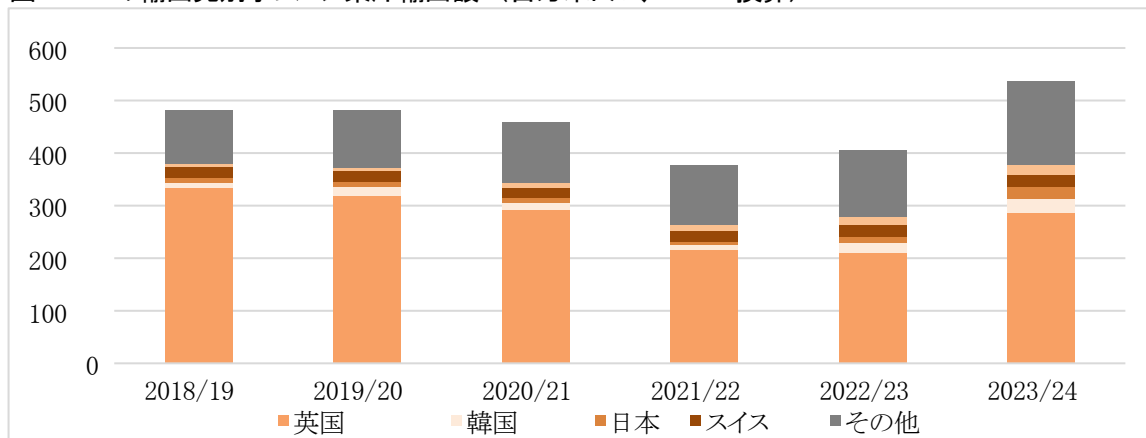
前シーズンに低い水準に落ち込んだオレンジ果汁の消費量は、2024/25年度には平均的な水準に戻ると予想される。

図5 EUの原産地別(ブラジルを除く)オレンジ果汁輸入額 (百万米ドル、Brix65換算)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

図6 EUの輸出先別オレンジ果汁輸出額 (百万米ドル、Brix65換算)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図